

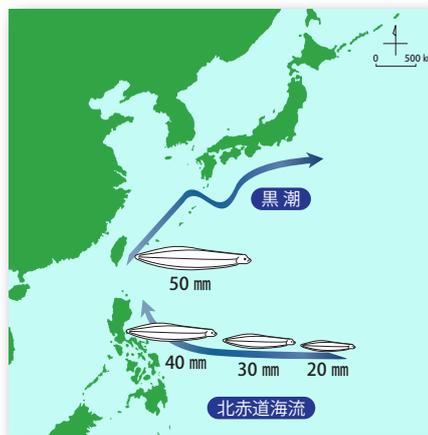


### ウナギの発育順序

島津製作所製造

口径 65 φ × 425mm

ウナギの発育順序を8段階にわけて示した液浸標本。ウナギは、卵から孵化した後、柳の葉形で半透明なレプトセファルスとして成長するが、その後、変態して稚魚となり、成魚と変わらない姿となる。標本の1から3がレプトセファルス期、4から8が稚魚期を示している。液浸標本を用いた生物教育は、現在ではあまり目にしなくなったが、「理科」という教科が成立した 1886 (明治 10) 年以降、剥製標本や掛図などとともに、生物教材の主流ともいえるものであった。そのため、京都教育大学には、このウナギの液浸標本をはじめとして、戦前に作成されたと思しい液浸標本が多く伝わっている。なお、現在、使用されている小学校 4 年生の教科書『国語 四下はばたき』では、海洋生物学者の塚本勝巳氏が執筆した「ウナギのなぞを追って」という文章が掲載されている。そこでは、ウナギの産卵場所やレプトセファルスを、70 年の歳月をかけて探し求めてきたこと、北赤道海流の中で 10 mm 前後のレプトセファルスを約 1000 匹取ることができたこと、海流の上流へ行くほど小さいレプトセファルスが取れると予想されること、などが記されており (下図参照)、ウナギの幼生であるレプトセファルスは、小学生の間ではよく知られた存在であるといえる。



マリアナ諸島の西 海山付近